

そう だい
総 題 「マルコによる福音書」

だいじゅういつ か とら さば
第 1 1 課 捕らえられ、裁かれる

ただまさや
武田将弥

いち あんそくにちご
1. 安息日午後

マルコによる福音書の 1 4 章 から 1 6 章 は、イエスさまの「受難物語」になっています。受難というのは、十字架の時に苦しみ、死んで、復活されたことです。聖書を調べると、イエスさまは金曜日の夕方に十字架で死に、日曜日に復活されました。安息日である土曜日は、お墓の中で静かに眠っておられたのです。今週は 1 4 章 の物語を中心に勉強をしていきます。



に にちようび わす
2. 日曜日：忘れがたいこと

マルコ 1 4 : 1 を読むと、過越の祭りが始まる 2 日前だと書いてあります。イエスさまを殺そうと計画する人たちと、イエスさまに高価な香油を塗った女性の話が紹介されています。

マルコによる福音書には香油を塗った女性が誰なのかはハッキリと書かれていませんが、この女性はイエスさまに自分の出来る限りの感謝（高価な香油を塗った）をしました。この行為はイエスさまをとてとても喜ばせます。しかし、これからイエスさまを裏切るイスカリオテのユダは、イエスさまの心をひどく悲しませました。

マルコによる福音書に女性の名前は書かれていませんが、ユダの名前は書かれています。

4 つある全ての福音書には、女性の素晴らしい行為が記されていますが、ユダについてはおそろしい裏切り（銀貨 30 枚でイエスさまを祭司長に引き渡したこと）が書き残されています。

不思議なことに聖書には、この女性がしたこと（高価な香油を塗った行動）とユダがしたこと（おそろしい裏切り）が、正反対に記されています。



さん げつようび さいご ばんさん
3. 月曜日：最後の晩餐

いま にせんねんまえ じゅうじか まえ ばん
今から2000年前、十字架にかかる前の晩のことです。イエスさまは弟子たちと過ぎ越しの食事をされま
した。この時からイエスさまは記念として「洗足聖餐式」を続けるようにと言われました。

いま わたし せんそくしき あし あら あと せいさんしき
今の私たちは洗足式で足を洗いあつた後に、聖餐式でパンとぶどうジュースをいただきますが、それ
はイエスさまの体（パン）と、命の血（ぶどうジュース）をあらわしています。イエスさまはご自分を
う い ひと かならず すぐ やくそく
受け入れる人を、必ず救うという約束をしてくださいました。この洗足聖餐式は2000年前からずっと
つづ ぎしき ぎしき つづ むかし ほんとう い み
続いている儀式であり、この儀式が続いているということは、イエスさまは昔、本当にいたことを意味して
います。聖書の物語は作り話ではないという証拠にもなっているのです。

よん かようび
4. 火曜日：ゲツセマネ

まよなか やま てんじょう ちち ひつし いの くる と のぞ
イエスさまは真夜中のオリーブ山で、天上の父にむかって必死に祈りました。苦しみが取り除かれるよ
うに祈りますが、神様の御心とご計画に従ったのです。十字架の経験によって救いがもたらされること
になっているので、イエスさまから十字架の苦しみが取り除かれることはありませんでした。

くる とき なかま こころづよ ざんねん じぶん いの とき
苦しい時に仲間がいると心強いものですが、残念ながらイエスさまが自分のために祈ってほしい時に、
でし ねむ けつきよく いの ひとり くる た む
弟子たちは眠っていました。結局は祈ってもらえず、イエスさまはたった一人で苦しみに立ち向かわなく
てはなりませんでした。

ご すいようび す に
5. 水曜日：すべてを捨ててイエスから逃げる

イスカリオテのユダは裏切り者として有名なので、救いようのない悪魔的な
せいかく いんしょう
性格をしている印象があるかもしれません。しかしホワイト夫人によると、ユ
ダは極悪人（とても悪い人）ではなかったようです。私たちと同じように神を
しん こころ
信じる心もありましたが、この世を愛する気持ちの方が強かったのです。ユダ
がイエスさまを裏切ったのは、欲望が強いところをサタンに狙われて、利用され



てしまったからでした。だから私たちはユダを責め裁くことはせず、むしろ自分もユダのようにならないよう
ちゅうい
注意しましょう。

じゅうよん：ごじゅういち ごじゅうに い わかもの とうじょう わかもの
マルコ 14：51～52 には、イエスさまについて行こうとする若者が登場します。この若者が
だれ わ
誰なのかは分かりません。イエスさまは「すべてを捨てて、わたしに従って来なさい」と言われましたが、
わかもの じぶん つか
この若者は自分が捕まってしまうそうになると、すべてを捨ててイエスさまから逃げてしまいました。人間
こころ よわ
の心は弱いのです。

ろく もくようび まえ なにももの
6. 木曜日：お前は何者か

イエスさまが裁判に連れて行かれると、大祭司は「本当のことを言え！ お前は何者か？」と質問し、イエスさまは正直に「わたしはメシア（救い主）です」と答えました。

ところが弟子のペテロは別な場所で「あなたの顔を見たことがあります。たしかイエスと一緒にいたでしょう？」と言われます（マタイ 26：71、マルコ 14：67、ルカ 22：56、ヨハネ 18：17、25）が、ペテロは心のなかで（ヤホい！ バレたらどうしよう…）と慌てて「イエスだって？ 何のことだか分からないよ」と、イエスさまと関係がないフリをして嘘をつきました。

「お前は何者か？」という、同じような質問をされたのに、正直に答えるイエスさまと、嘘をつくペテロのお話が聖書には残っています。

しち きんようび けんきゅう
7. 金曜日：さらなる研究

ペテロは鶏がなく前に「イエスなんて知らない！ 自分とは関係ない！」と3度も裏切ってしまった時、イエスさまと目が合いました。目を見れば相手の気持ちが分かると思いますが、イエスさまはペテロを怒って憎んでいるのではなく、むしろ深い憐れみと悲しみの気持ちで赦しておられました。（ヨハネ 21：15～19）

神様は私たち人間の心が、とても弱いことを知っておられます。それにもかかわらず、神様は愛のお方なので、私たちを見捨てることはないのです。神様に感謝しましょう。

ふ かえ しつもん
★振り返りの質問★

「洗足聖餐式」はとても大切な儀式ですが、もっと参加者を増やすためにはどうしたら良いでしょうか。みんなで考えてみましょう。

